

## HTLV-I キャリア妊婦における児の同胞と実態について

(分担研究：ATL母子感染の予防)

中山道男\*、前浜俊之\*、仲地廣順\*

要約：母乳哺育を行ったキャリア妊婦の児の同胞について抗体検査を行い、そのキャリア化を検索し、これにつき母親の抗体価、および授乳期間との関連を検討した。さらに、キャリア妊婦より出生した児について哺育方法別に抗体および PCR法を行った。

見出し語：児の同胞のキャリア化、PCR法

研究方法：対象は母乳哺育児 114例、凍結母乳投与12例、人工乳投与14例で抗体検査と PCR法を行った。また臍帯血17例についても PCR法を行った。抗体検査は EIA法、western blot法を行い、PCR法は増幅部位をHTLV-Iの polの一部(110b.p.)として、その部位のプライマーおよび Taq polymeraseを用いた。

結果：母乳哺育を行ったキャリア妊婦の児の同胞のキャリア化率は 114例中 5例で 4.3%であった。また、授乳期間との相関はなかった。母親の抗体価との相関性については、キャリア化した児はすべて EIA法の cut off値の 3倍以上

であった。キャリア妊婦より出生した児58例中母乳哺育児15例中 1例は抗体陽性、PCR法陽性、残りの14例中 3例が抗体陰性、PCR法陽性であった。これに対し、凍結母乳投与においては、12例中 1例が抗体陽性、PCR法陽性、残りの11例中 2例が抗体陰性、PCR法陽性であった。さらに、人工乳投与においては14例中 3例が抗体陰性、PCR法陽性であった。また、臍帯血17例中 2例において PCR法陽性であった。

考察：母乳哺育が行われたキャリア妊婦の児の同胞のキャリア化率は 4.3%であり、他の報告に比べ低い成績であった。さらに抗原検索を行

\* 琉球大学産婦人科 (Dept. of Ob. and Gyne.  
Sch. of Med. Univ. of the Ryukyus)

い、慎重に検討する予定である。

また、母乳の授乳期間、母親の抗体価によりキャリア化率の検討を行った結果、授乳期間との間には相関性はなく、母親の抗体価との相関性についてはキャリア化した児の母親はすべて cut off 値より 3倍以上の抗体価であった。この結果、cut off 値から 3倍未満のキャリア妊婦からは児のキャリア化はおこりにくいということが示唆されるが、低い抗体価のキャリア妊婦が少ないため、今後の検討が必要と思われた。キャリア妊婦より出生した児58例において哺育方法別に抗体検査、PCR法を行った成績では、母乳哺育児において抗体陰性でも PCR法陽性が見られている。一方、凍結母乳投与、人工乳投与においてもそれぞれ抗体陰性、PCR法陽性が少数例ではあるがみとめられ、さらに臍帯血17例中 2例が PCR法陽性であった。以上の結果は

抗体陰性、PCR法陽性の症例が散見されるため、キャリア化を判定するためには、さらに慎重な検討が必要である。また、人工乳投与、凍結母乳投与さらに臍帯血の検討より、PCR 法陽性率がそれぞれ2~3例みられ、母乳以外の感染経路、即ち産道、子宮内感染が示唆された。

#### 文献

- 1)Saiki.R.K.et al:Primer directed enzymatic amplification of DNA with a thermostable DNA polymerase. Science 239:487-491.1988.
- 2)Byrne,B.C.et al:Detection of HIV-1 RNA sequence by in vitro DNA amplification. Nucleic Acids Res. 16:4165. 1988.
- 3)Stoflet.E.S.et al:Genomic amplification with transcript sequencing. Science 239: 491-494. 1988.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:母乳哺育を行ったキャリア妊婦の児の同胞について抗体検査を行い、そのキャリア化を検索し、これにつき母親の抗体価、および授乳期間との関連を検討した。さらに、キャリア妊婦より出生した児について哺育方法別に抗体およびPCR法を行った。